

# くらしの日本語 in しが 使い方マニュアル



発行 滋賀県



## 「くらしの日本語 in しが」をご活用いただくために

この副教材「くらしの日本語 in しが」は、滋賀県在住の外国の方々が日本語を勉強する際に、覚えて学習や毎日の生活に生かしてほしいことを中心に作りました。主教材を使って学習しても、分からないことはたくさんあります。また、この内容がお使いの主教材と重複することもあるでしょう。使う教材によっては、その目的も違い扱う語彙が異なるのは当然のことです。ですから、どの主教材とも併用可能で、眺めているだけで復習になり、語彙の確認に役立ててほしいという願いを込めて作成しました。第1部は日本語学習について、第2部は生活面、第3部は滋賀県に関する情報を取り上げました。

### <講師が教える>から<学習者が自ら気づく>へ

言葉の習得においては、学習者が主体となり自ら気づき学んでいくことが望ましいと考えています。日本で暮らしている人達は、日々文法や語彙の難易度に関係なく、生の日本語に接しています。その中には、漢字の読み方や意味の分からない言葉がたくさんあるはずです。時には理解できない日本語がネックとなり、もっと分からない負の連鎖に陥っている場合もあるでしょう。しかし何らかのきっかけで、自分の抱えていた問題が解決出来れば、それを手掛かりに一步先へ進めるのではないのでしょうか。学習者は自分の気持ちを上手く表現できない段階でも、「こういう気持ちを伝えたい」という思いはあるでしょう。副教材を眺め、どれかの絵を指して「この言い方が知りたかった」と気づいて（発見）くれたら、それは大きな収穫だと思っています。この副教材には、絵から内容が理解できるものがたくさんあります。そしてその意味が分かれば、自分で推測し理解し、応用もできるはずです。

この副教材「くらしの日本語 in しが」には、学習者が自ら学び、読み・気づく場面を多く盛り込みたいと思いました。最初の文字ひらがな・カタカナの習得には、少し時間が必要かもしれません。もちろん講師の指導や説明は不可欠ですし、練習も必要です。しかし講師側からは敢えて事細かに説明せずに、学習者の反応を待って、必要に応じて質問を投げかけ学習者が気づく時間を確保して頂きたいと思います。講師側に求められるのは「忍耐」かもしれません。学習者が教えてもらい受身で学ぶというスタイルから、自主的に学ぶ姿勢へのお手伝いをして頂きたいと考えています。具体的にどういう「手助け」が必要になるかというところ、学習者の理解度を見極め、更なる学習を促すちょっとしたヒントや誉め言葉や、時には励ましの言葉かけです。学習者のやる気や意欲を上手に引き出し、モチベーションをいかに維持していくかが上達のカギだと思っています。

この副教材に関しては、学習者や講師の方の興味のあるページや必要だと思われるページから、順序に関係なくお使いください。マニュアルもご参照いただき、それが授業の活性化につながることを大いに期待しています。

## 第1部の制作意図と練習例

この副教材には、学習者が自主的に日本語と向き合ってほしいという願いを込めました。イラストを多用し分かりやすくすることで、自力で読めば理解できるように、そしてそれらを頼りに眺めることで、文字を読むのに抵抗がなくなるようにしたいと思いました。

「日本語の授業では先生の言うことは理解できるけれど、実社会ではほとんど分からない」という声をよく聞きます。それは、クラス内では使う語彙を厳選し文法もコントロールされた「より簡単な、より分かりやすい日本語」で授業をしているからなのです。しかしいつかはそんな配慮も無用になり、学習者が自分の言葉で自由に話せる日が来ると願っています。授業ではそんな日を目指しているのですから、簡単な練習をしていても常に一歩も二歩も先のことを念頭において臨んでほしいと思います。

日本語学習としては初心者であっても、学習者が今までの人生で得た知識や経験は膨大なはずです。この副教材では、そんな学習者の既存の知識を最大限生かして頂きたいと考えています。クラスでは「〇〇ページを見てください」というのではなく、さりげなく何かの練習に入ってください。そして確認の段階で、副教材を開いて一緒に眺めて欲しいのです。学習者が練習の意図を察して、自主的に該当のページを探して見るのは一向に構いません。(今は見ないで！と制止するのではなく、自主性に任せて頂きたいのです。)

学習者のレベルによっては、簡単すぎることや難しいことがあるかもしれません。しかし、既習事項であれば確認の意味で、未習事項のときは先取り練習と捉えてください。語学は一度で身につくものではありませんから、二度三度と形を変えて練習することが定着への早道だと考えています。各項目に簡単な説明と、授業で活用して頂く際に、応用可能な練習例を載せました。併せてご覧いただければ幸いです。

### ひらがな・カタカナ

これは、どの主教材でも取り上げられているもので、ひらがなとカタカナの表だけ載せました。音と文字が一致したら、意味が分かり、言葉の理解が一気に進むはずです。あいうえお(母音)とk・s・t・n・h・m・y・r・w(子音)との組み合わせで「か行～」をが出来ていることを概要として押さえてください。「か行」「さ行」を聞けば、「た行」以降は推測して言いたくなる人もいるでしょう。そうなればしめたもので、教える側はひらがなを指さすだけで、いくらでも文字を読んでもくれるでしょう。そこで、文字と絵を組み合わせる意味の定着が出来れば大丈夫です。一度にたくさん練習するより、もっとやりたいというところで(練習に疲れて飽きる前に)止めて、次回の練習に譲りましょう。

### お金・数

お金や数・簡単な計算についての読み方で、お金は現在使われている物の見本です。生活していく上では、実に様々な場面でお金や数が出てきます。例えば買い物で店の人が言った

金額が聞き取れたら、それは大きな自信になるでしょう。また、エレベーターで乗り合わせた人から「何階ですか」と聞かれて、「6階お願いします」と自分の行きたい階が言えたら、直ちに通じたことが実感できるでしょう。このように毎時間少しずつでも「数」を意識した練習を取り入れると、会話も自然に盛り上がります。

#### <応用>買い物・電話番号・簡単な計算

クラスでは品物や絵カードなどの裏に値段をつけて、「いくらですか」「2300円です」のような練習も可能です。メニューなどを使って、店員と客の練習はとても実践的です。身の回りの「数」を探して、実際に読んだり書き取ったりすると緊急時にも役立ちますね。また、スーパーのチラシやレシートなども活用してみましょう。

電話番号の読み方に関して特に取り上げませんでした。郵便番号や各種証明書などの番号を「棒読み」することに少し触れてもいいかもしれません。123-4567-890「ひやくにじゅうさん〜」ではなくて、「いち・に・さん・の・〜」という読み方です。また「-」ハイフンの読み方も「の」をよく使っています。それから「0」の読み方については「ぜろ/れい」ですが、会議室や部屋番号を通例的に「まる」と読む時もあります。例えば、「405」を「よん・まる/ぜろ/れい・ご」と読むような場合です。

#### 年月日

これも一回で理解定着できる練習ではないので、毎回慣れるまで授業に取り入れてほしいと思います。カレンダーを使いながら「今日は何月何日ですか?」「何曜日ですか?」「〇〇さんの誕生日はいつですか?」のような練習は有効です。役所や病院の受診で聞かれることの多い「生年月日」は覚えておいてほしいですし、「誕生日」との違いが分かるといいですね。また次の授業日や授業が休みの日を確認する時は、学習者に交代で言ってもらおうと忘れにくいと思います。

#### <応用>

- ・5月の次の月は?
- ・小学生のお子様がいらっしゃる方は、学校で「小の月・大の月」のような言い方を習うかもしれません。クイズとして「8月は何日ありますか(ですか)」、「1週間は何日ですか」のように聞いてみるのもいいでしょう。

時間時間の言い方も色々ありますが、24時間の読み方や傍らの午前・午後・朝・昼・夕方等の区別が理解出来ればいいでしょう。授業時間の確認として「授業は何時から何時までですか?」や時刻表を見ながら、「次の電車は?」等と練習するのもいいですね。

#### <応用>

「ブラジルでは、今何時ですか」のように、時差を意識してのQ&Aは実生活に基づいていて、いい練習になるはず。出身国との時差については、学習者の皆さんはよくご存じで

すから、積極的に聞いてもらいましょう。

レストランの開店時間や映画の上映時間、銀行・郵便局・役所の窓口の対応時間、ATM が使える時間の Q&A は、とても実践的で役に立ちます。

## 在留カード

学習者の方々は、皆このカードを持っているはずですが、日本で生活していく上で大切な身分証明になるカードですから、少しずつでも読めるようになってほしいと思います。一度全てを覚えるのは難しいでしょうが、二度三度と練習を繰り返すうちに読める言葉が増えていくでしょう。

名前を役所では「お名前は」と聞かれ、在留カードには「氏名」と書いてあることに戸惑うかもしれません。そのような疑問が生じたら（質問が出たら）敬語の概念に触れるいい機会だと捉えてください。日本語学習では最初の段階で扱われることがない敬語ですが、日常生活で「いただきます」「列車が参ります」「いらっしゃいますか」など、聞いたことがあると思います。多くの例に当たる必要はありませんが、「名前-お名前」「自己紹介」等を参考に、「〇〇-〇〇さん」「ふつう-ていねい」の言い方を示してみてください。漠然としたイメージだけで大丈夫です。初級の後半で尊敬語・謙譲語を習うと思いますが、その先取り学習と考えて頂ければいいでしょう。

## こ・そ・あ・ど

授業の最初に「こ・そ・あ・ど」を認識しておくこと、以降の理解がスムーズです。国文法では名詞・連体詞・副詞・形容動詞と分けられている指示語ですが、日本語教育で区別はしていません。それだけに早い段階で、こ（近称）そ（中称）あ（遠称）ど（不定称）と、こ（自分に近い）そ（相手に近い）あ（両方から遠い）ど（不明）の理解は必要だと思われます。これらの知識は事物・場所・方角・様子だけでなく文脈理解に繋がっていくので、初期段階での練習が大切だと考えます。特に近称と遠称しかない言語に比べると、「こ」と「そ」の使い分けが難しい時もありますが、実質的な距離より領域的（テリトリー）な感覚が必要だと思われます。

例) 痒い背中を誰かに搔いてもらう時、自分の背中（体）であっても「そこ」を使います。

自分「ちょっと、背中搔いてくれる？」

相手「どこ？このあたり？」

自分「ああ、そこそこ！」

このような状況は、ケガで受診する時のやり取りでもよく見られることです。明らかに自分の体（自分に近いなら「こ～」？）でありながら、相手が搔いたり触診してくれる場所には「そ～」を使っています。自分の体を相手に託している（相手の領域）だと認識しているからでしょう。

また、「あ～」に関するのですが、先ほど距離的な感覚では両方から遠いと書きました

が、物事や過去の一時点（時間）や場所についても、話し手と聞き手の双方に共通の認識がある場合には「あ〜」を使います。

1) A: 「Bさん、あれはどうなった？」

B: 「ああ、あの契約の件ですか。実は、まだなんです」

(AさんBさんの共通認識がある)

2) A: 「昨日あれからどうしましたか。」

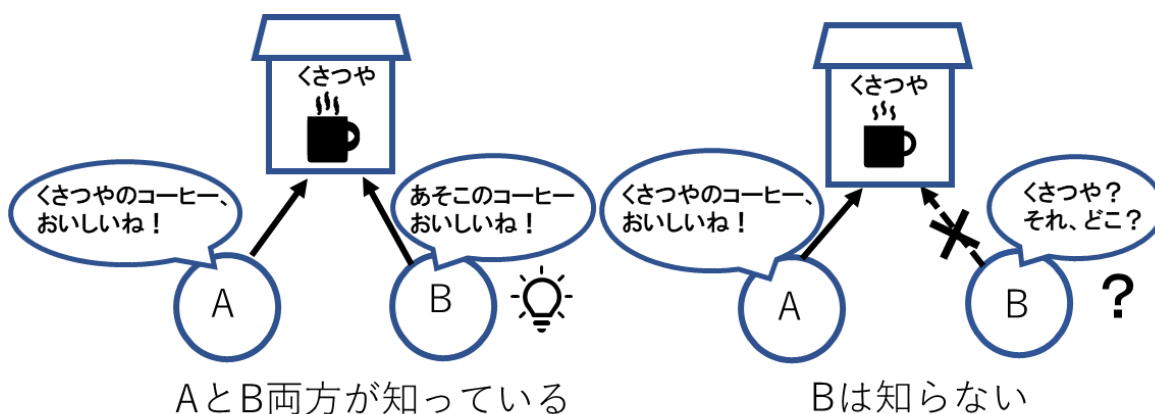
B: 「あれから、スーパーで買い物して帰りました。」(AさんBさんの共通認識がある)

3) A: 「昨日は、どこかへ行きましたか。」

B: 「ええ、映画を見に行きました。」

A: 「それから、どうしましたか。」 (←あれ×)

B: 「映画を見て、それから、スーパーで買い物して帰りました。」(Bさんだけの話題)



A: 「くさつやのコーヒー、おいしいね！」

B: 「あそこのコーヒーおいしいね！」 (AさんとBさん両方が知っている)

A: 「くさつやのコーヒー、おいしいね！」

B: 「くさつや? それ、どこ?」 (Bさんは知らない)

こ・そ・あ・ど・の右ページに載せた言葉は位置を表す言葉です。「ひろし君はどこにいますか」「あそこです。あの車の右です。あの車の右にいます」のように少しずつ無理なく言えば分かりやすでしょう。

また「郵便局はどこにありますか」に関しては、市街図などがあればそれを見ながら「駅はどこですか（どこにありますか）」、「スーパー（マーケット）は？」等と自然な雰囲気から入っていくと、（練習しているつもりなく）理解が進むことでしょう。ホワイトボードや絵やマグネットなどを効果的に使って、これらの位置関係と「います・あります」の定着を

図っていただきたいと思います。

## 色・模様

基本的な色の紹介ページです。生活の中では、クレヨンや衣料品や雑貨などの色の名前は統一されていません。例えば、ピンク・ももいろ、オレンジ・だいたいいろ、ブラウン・茶色などです。覚えた色が主教材で使われている色名と違う場合も、店の商品の表示と違うこともあるでしょう。例として載せた名前が、絶対的ではないことをご承知おきください。

また、ここではクイズとして「Q1：赤と白を混ぜるとどんな色になりますか」を載せました。練習問題として、知らない言葉と習っていない文型を同時に提示されたら、即座には理解できません。しかし色の名前が分からなくても、色が認識出来て色の変化を理解できれば、この色クイズは決して難しくないでしょう。もうお気づきだとは思いますが、日本語初級文法でよく取り上げられる「～と、～になります」にも応用練習が可能です。「計算」（お金と数）「 $100 - 7 = ?$ 」（100から7をひくと、いくつになりますか。100ひく7はいくつですか。）「一本4000円のワインを3本買うと、いくらになりますか」という具合です。それが理解出来たら、「～と、○○があります」のような道順練習や、「ここから大阪まで50分です。11時の電車に乗ると、何時に大阪に着きますか」というようなクイズにも発展させることができます。

## 模様・デザイン

ここでは基本的な模様やデザインを紹介しました。そして、色と品物（衣服・花・物）を名詞修飾の例として載せましたが、これも他に色々な言い方があると思います。実際にはもっと複雑で表現しにくいと思いますが、より実生活に近づけるための基本練習とご理解ください。

## 季節・天気

世界では常夏・雨季と乾季等、日本の四季ほど明瞭な区別がない地域も多いです。南半球では四季があっても、月と季節は日本とは違います。梅雨や台風には触れていませんが、学習者から質問が出たら、是非ご紹介をお願いしたいです。

初対面の人とでも、当たり障りのない天気の話なら、場を和ませてくれるでしょう。「いい天気ですね」「今の時期にしてはちょっと寒いですね」「よく降りますね」等の言葉は、共感を得やすく、単にあいさつ代わりというより、それ以上の効果があると思われます。ここでは少しだけしか載せていませんが、授業ではその場に応じた言葉を投げかけて頂きたいと思います。